

『登別温泉開湯150年』 温泉の恵みに感謝！

～第37回登別温泉湯まつり～

登別温泉の開湯は、1858年（安政5年）に幌別場所の請負人岡田半兵衛が道路を造り、湯治を目的に止宿所（共同浴場）を建て、滝本金蔵が湯守となったのが始まりと言われています。これから数えて150年の節目にあたる今年、『登別温泉開湯150年』の冠を付けて『第37回登別温泉湯まつり』（市、登別観光協会共催）が、2月3日(日)・4日(月)にカルルス温泉と登別温泉で行われました。

この湯まつりは、温泉の湯量や効能への感謝と観光客や市民の安全、無病息災などを願って行われているもので、閻魔大王の使者である湯鬼神がホテルや飲食店などを回りながら厄払いをしました。4日の夜には、子宝もちまきと下帯姿の男性やさらし姿の女性が紅白に分かれて、豪快に湯を掛け合う湯かけ合戦が行われ、今年は白組が勝利。白組が勝つと湯量が増えると言われており、温泉の恵みに感謝していました。



▲子宝もちまき



▲湯かけ合戦

かわいいミニおひな様でひな祭り

～おひな様人形づくり～



2月9日(土)、郷土資料館で『おひな様人形づくり』（市主催）が行われ、子どもから大人までの16人の方が参加しました。

郷土資料館ボランティアグループSLGが講師となり、はじめに綿で作った胴体に、和紙を素材とした着物を着せ、髪を乗せておひな様を完成。次に屏風を作り、ひな壇に飾っていました。

参加者は、着物の重なりを表現する細かい作業に悪戦苦闘しながらも、講師の手助けを受けながら完成させ、「さっそく家で飾ります」とうれしそうに話していました。

災いなんて吹き飛ばせ

～鬼まつり～

1月26日(土)、登別・幌別・鷺別地区で『鬼まつり』（鬼まつり実行委員会主催）が行われました。

このまつりは、市民の無病息災や開運招福、北海道洞爺湖サミット成功の願いを込めて開催されたもので、赤鬼や青鬼に扮した『豆まき隊』が、太鼓や笛、かねを鳴らしながら、各地区の商店街や飲食店、保育所、幼稚園などを訪問。保育所では、子どもたちが泣き出して保育士にしがみついたり、鬼に向かって豆を投げたりしていました。

また、今年初めての試みとして『豆まき隊』の個人宅への来訪が行われ、応募のあった3件のお宅を訪問しました。

幌別地区のイベント会場であるらっぱ公園では、『ほろべつ活性化推進協議会』が登別の名物にと試作した『のぼりべつ地獄の釜めし』が初めて振る舞われたほか、各地区では『NPO法人ライブサポート』による『鬼・望キャンドルフェスタ』も開かれ、まつりを盛り上げていました。

